



— 口腔機能低下症の診療を実施している医院の事例を紹介します —

「口腔機能低下症」は、う蝕や歯の喪失など従来の器質的な障害とは異なり、いくつかの口腔機能の低下による複合要因によって現れる病態。7つの下位症状のうち3項目以上該当する場合に「口腔機能低下症」と診断されます。詳細は日本歯科医学会発行の「口腔機能低下症に関する基本的な考え方」をご参照ください。

▶管理では6か月後の再検査に向け数値目標を設定 担当歯科衛生士を中心にシステムを構築

検査導入初期の30症例を通じて、既存の資料での使いにくさや課題を抽出し、説明用の資料や記入する用紙を使いやすいよう医院独自にアレンジしています。管理では数値目標を設定し、「6か月後の再検査時に達成しましょう。」と伝えることで患者さんの訓練のモチベーション維持につなげています。訓練が継続できるよう、再検査では良くなった項目に注目し、さらに良くするよう指導しています。

院内システム

【対象患者】

- 50歳以上

【検査案内のタイミング】

- Drが複数の患者を同時に診療しているので、処置の待ち時間に検査の紹介・問診を実施

【訓練指導】

- 初回の指導では1種類のみ指導（主にあいうべ体操）
- 口腔機能管理だけの患者さんは検査の6か月後、他の治療のために来院があれば追加の訓練を指導



Point! 使いやすいよう既存の資料をアレンジ。

Point! 結果を数字で示し、6か月後の再検査での目標値を伝える。



舌圧検査の声掛け方法をスタッフ全員で統一。模型を使用し、プローブの位置、つづし方を説明。



必要なものを1BOXに。時間のロスなく検査から説明までスムーズにできる。



医療法人蒼天会
安元歯科医院
(福岡県筑紫野市)

院長 安元 和雄 先生

当院は、先代健吾が1916年8月より筑紫地区第1号開設者として地域医療に勤んでおります。先代が義歯のエキスパートだったことから大学では補綴科に進み、縁あって保存、矯正、小児と経験し、予防の大切さを痛感しております。歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、スタッフが一丸となり、シームレスに訪問診療も可能となりました。老化は成長が終わると始まると言われる。乳幼児期から学校歯科を通じて生きる力を育み、「長寿と健康は一体」を見える化するためにも口腔機能検査は必須です。なって悔やむよりならず「歯合わせづくり」のお手伝いのため日々精進しています。

症例



患者:85歳 女性

歯周病重症化予防治療で通院中の患者さん(全身状態良好、既往歴無)。

コロナ禍でのマスク生活から口腔乾燥の自覚があるため口腔機能低下を疑い検査を実施。

〈検査当日〉口腔衛生状態、口腔乾燥、舌口唇運動機能、舌圧の4項目が該当し、口腔機能低下症と診断。唾液腺マッサージ、喉が温いていなくても500mLペットボトル1本/日を目安に水を口に含んでいたくよう水分摂取の指導。

〈1~5か月後〉通院に合わせて、機能訓練の状況確認。患者さんの希望や現在の状況をお聞きしながら、次回の検査までに飽きないように動画を活用するなど再指導。

〈6か月後〉再検査を実施し4項目が該当。低舌圧の対策としてあいうべ体操(初めは入浴時1回、慣れてきたら1日2回)を指導。自宅でトレーニングを確認しやすいように、QRコード付きのカードをお渡し。

〈7~11か月後〉機能訓練の状況確認。口腔ケアの動画(日本歯科医師会公式チャンネル)を見るようになった、水の摂取量が1L/日以上に増えたとのこと。あいうべ体操の回数を1日3回へ変更。

〈12か月後〉該当が2項目となり回復。舌圧は改善傾向のため引き続きトレーニングを継続するよう伝え、6か月後に再検査予定。

	初回	6か月後	12か月後
口腔衛生状態(%)	55.6	55.6	33.3
口腔乾燥	26.7	26.8	27.8
咬合力(残存歯数、本)	29	29	29
舌口唇運動機能(回/秒)	/pa/ 6.0	6.2	6.2
	/ta/ 6.0	4.8	5.4
	/ka/ 5.4	5.6	5.4
舌圧(kPa)	21.0	21.9	25.9
咀嚼機能(咀嚼能力検査、mg/dL)	129	131	130
嚥下機能(EAT-10、点)	0	0	0



検査を実施していると、隣のユニットの患者さんが興味を持ち、検査することも。



「口腔機能検査」と検査名だけ聞くと、緊張され、ご心配をされる患者さんも多いですが、私共の医院では患者さんへ検査の説明をする際に「今のお口の状態を数字にして見てみませんか?」とお伝えしています。体温、血液検査や血圧のデータを自身の日々の健康管理に役立てているように、患者さんの健康数値にお口のデータも追加できる口腔機能検査は、まさに健康管理の一部であり、体温や血圧と同じように数字で結果がわかる点が患者さんにも分かり易く、評判の良い検査の一つです。私たちスタッフも口腔機能が「見える化」されることで、より患者さんのご希望や気持ちに寄り添えると考えています。(歯科衛生士 辻 恵子さん)

※2022年5月現在の情報です。



» 口腔機能 ホームページ

» <https://www.gcdental.co.jp/product/oralfunction/> »

